都 市 戦 略 整 備 委 員 会 記 録（Ｎｏ．２６）

１　日　　時　　令和８年５月１４日（木）
午前１０時００分　開会
午前１１時０６分　閉会

２　場　　所　　第６委員会室

３　出席委員（９人）

委員長	森　結実子	副委員長	中島隆治
委員	佐藤栄作	委員	田仲常郎
委員	片山　尹	委員	成重正丈
委員	山﨑英樹	委員	山内涼成
委員	井上純子		

４　欠席委員（０人）

５　出席説明員

都市戦略局長	小野勝也	計画部長	池田秀昭
都市交通政策課長	民谷　充	小倉・黒崎再生担当部長	金岡　健
小倉再生担当課長	友松和宏	都市整備局長	南　孝昌
総務用地部長	井上尚子	総務課長	池田弘幸
道路部長	竹島久美	長寿命化対策課長	川原俊一
河川公園部長	平野　研	みどり公園課長	稲木禎徳
交通局長	中島　尚	交通局次長	久保慶司
総務経営課長	肥塚秀夫		外　関係職員

６　事務局職員

委員係長	花岡優子	書記	山下絵美理

７　付議事件及び会議結果

番号	付　　議　　事　　件	会　議　結　果
1	行政視察について	行政視察の事前研修のため、本市での取組等について別添資料のとおり説明を受けた。
2	公共インフラの適切な維持管理・整備について	都市整備局から別添資料のとおり説明を受けた。

８　会議の経過

（４月１日付人事異動に伴う人事紹介を受けた。）

○委員長（森結実子君）開会します。

本日は、所管事務の調査を行います。

初めに、本委員会の行政視察については所管事務の調査に資する取組を行っている都市に視察を行うこととしていますが、この視察が実りあるものとなるよう事前研修を行います。京都市の景観に調和した橋りょうの整備について、香川県高松市のウオーターフロント都心地区における都市開発について及び岡山市の持続可能な地域公共交通のネットワークづくりについての参考とするため、本市での取組等について執行部から説明を受けます。

それでは、説明をお願いします。長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋について御説明させていただきます。

資料の１ページを御覧ください。現在の常盤橋の経緯です。現在の常盤橋は、平成７年に紫川の河川拡幅に合わせ、江戸時代の長崎街道を連想させる歩行者専用の木橋として架け替えられました。平成11年、他都市において常盤橋と同じボンゴシを使用した橋が腐食により落橋した事故を受け、常盤橋の調査と安全確認を行った結果、平成12年に腐食の兆候が確認されたため、専門家の助言を受けながら補修等の対策を検討いたしました。平成16年以降、防腐処理などの補修や補強を行うとともに、橋桁の沈下量を定期的に観測するなど、常盤橋を長く使うための維持管理を実施してきました。このような中、令和６年９月、橋桁の沈下量の異常な変化と損傷が確認されたため､安全確保を優先して通行止めを実施いたしました｡令和７年１月に、地域の方々や専門家と常盤橋の現状を共有する目的で、常盤橋に関する懇話会を開催いたしました。この懇話会での常盤橋を残してほしいという強い思いを受け止め、地元自治会や歴史、まちづくり、木橋の専門家、歴史を生かしたにぎわいづくりを行う団体、観光や町の魅力などの情報発信を行う事業者、Ｚ世代の若者などで構成します常盤橋のあり方検討会を立ち上げました。令和７年３月に第１回常盤橋のあり方検討会、令和７年９月に第２回常盤橋のあり方検討会を開催し、令和７年11月には市民の安全確保を優先した木製の橋桁を取り外す安全対策工事に着手し、本年４月に常盤橋のあり方検討会と地元大学生による現場見学を実施したところ

です。在り方検討会の構成員名簿につきましては、２ページ目を後ほど御覧ください。

２(1)第１回常盤橋のあり方検討会です。令和７年３月に開催し、専門家による常盤橋の歴史及び現在の常盤橋の損傷状況や技術的な所見、歴史・文化性、まちづくりや観光資源の観点及び今後の在り方等に関する意見交換を行いました。意見交換におきましては構成員の方々から様々な意見を伺い、その中で、常盤橋はどのような形であっても残してほしい、木製の橋桁は補修が困難であるため、安全性を考えると早めに撤去すべき、架け替えてしっかり活用し、皆に愛され、維持管理してもらえるような取組をすべきとの点について構成員の方々の意見の一致が見られました。

(2)第２回常盤橋のあり方検討会です。令和７年９月に開催し、市から安全対策工事に関する報告、架け替えを軸として今後の在り方に関する意見交換を行いました。意見交換におきましては、構成員の方々から、常盤橋は歴史的にも観光の視点でも重要、将来を担う若者の負担とならない再建やメンテナンスの計画が大事、歴史や観光、学びに加え、取り外した木材の再活用などＳＤＧｓの視点を取り入れてはどうかなど、ソフト面、ハード面での様々な御意見をいただきました。

(3)常盤橋のあり方検討会と地元大学による安全対策工事の現場見学です。令和８年４月に、取り外された木材の状態から今後の再活用の可能性を探る、次世代を担う学生に向けたフィールドワークの実施を目的に開催いたしました。常盤橋のあり方検討会構成員、地元大学生にも参加をいただき、大型クレーン車による橋桁の取り外し、取り外した橋桁の腐食状況の確認などを行いました。

３、今後の進め方です。今後は、木製の橋桁を取り外す工事が完了した後、川の中に残ったコンクリートの橋脚が再利用できるかなどを調査、検討し、その結果を踏まえ、常盤橋のあり方検討会において架け替えを軸に総合的に議論を深めていくこととしています。

３ページ以降に、常盤橋のあり方検討会における資料、現場見学の状況を添付しておりますので、後ほど御覧ください。以上で説明を終わります。

○委員長（森結実子君）小倉再生担当課長。

○小倉再生担当課長　高松市ウオーターフロント都心地区における都市開発の関連として、北九州市の小倉駅新幹線口地区における取組を御説明いたします。

資料の１ページを御覧ください。１、施設の整備です。小倉駅周辺では、これまでに紫川マイタウン・マイリバー整備事業、中心市街地活性化基本計画などの取組を行い、北九州市の顔としてふさわしい都市機能の集積を図ってまいりました。その中で、ウオーターフロントである小倉駅新幹線口地区では、コンベンション施設や都市基盤施設の充実による国際交流拠点の形成などを目的に、平成３年に小倉駅北口地区整備構想を策定し、その後、改定等を行いながら官民一体でまちづくりを進めてきたところです。これにより、中段に四角で囲んでおりますとおり、ホテルや展示場、病院やスタジアムなど、北九州市の中核を担う多様な施設が集積し

てまいりました。また、近年ではビジネスホテルや、あと分譲マンションなどの建設が行われ、開発エリアとしても注目を集めているところです。

２ページを御覧ください。２、施設を活用した集客、にぎわい創出です。これまでに整備された施設を活用し、多くの方々に北九州市を知ってもらう、また、北九州市に来てもらうことで町のにぎわいにつなげてまいりました。

その取組について、まずＭＩＣＥについて説明します。北九州国際会議場や北九州メッセなどにおいて様々な国際会議や展示会などが開催され、平成27年度には国からグローバルＭＩＣＥ強化都市に選定されました。また、昨年度は国際会議の誘致件数が都市別ランキングで過去最高の国内６位を記録するなど、国際ＭＩＣＥ都市としてプレゼンスを高めています。

次に、エンターテインメントについてです。エンターテインメントの大きな動きとしては、近年開催数が増加しているコンサート誘致、開催です。新幹線停車駅から徒歩圏内に大規模コンサートが開催可能な施設があるという極めて高い交通利便性、また、周辺に飲食や宿泊施設が整っているなど、１万人前後のコンサートを受け入れる環境が整っています。そのポテンシャルを最大限に引き出し、コンサート開催時の市内観光、また宿泊客数、また市内消費額の増加による地域活性化を目的に、官民が連携してコンサートの誘致、開催を支援する北九州市コンサート誘致コンソーシアムを令和６年に発足しました。この取組を契機としてコンサート件数が年々増加していますし、また、これまで人気アーティストＮｉｚｉＵであったりとかＸＧ、また、今年はＶａｕｎｄｙのコンサート開催が予定されるなど、着実にその成果が現れています。そのほかにもＴＧＣ北九州が継続的に開催されておりまして、総体感人数、来場者に加えてＡｂｅｍａなどの配信の総視聴者数を加えた人数になりますけども、これが昨年は史上最多となる約223万人を記録し、大盛況のイベントとなりました。

３ページを御覧ください。コンサートの誘致のみならず、大規模スポーツ大会の誘致、開催による町の活性化にも力を入れております。大規模なスポーツ大会の誘致、開催により国内外から多くの人が訪れ、小倉都心部のにぎわい創出だけでなく、観客や選手、大会関係者に対し、北九州市の観光スポットや食の魅力をＰＲできる絶好の機会となっております。

次に、本市のプロスポーツチームであるギラヴァンツ北九州についてです。現在、ギラヴァンツ北九州は、平成29年に開業したミクニワールドスタジアム北九州をメインスタジアムとして、年間約20試合の公式戦を行っておりまして、昨シーズンの１試合の平均観客数は約5,500人となっております。小倉駅から徒歩10分というアクセスの強み等を生かしまして、小倉都心部のにぎわいに大きく寄与しております。

また、昨年11月に、西日本総合展示場新館の通称名を北九州メッセとして運用を開始しました。様々なイベントが開催される際に、北九州という名前が会場名に入り、そのイベントが北九州市で行われているということがメディアを通じて広く伝わるという、シティープロモーションの観点からも大きな効果を生むものと期待しております。

引き続きこのような取組を行いながら、さらなる町の活性化を図ってまいりたいと考えております。以上で説明を終わります。

○委員長（森結実子君）都市交通政策課長。

○都市交通政策課長　持続可能な地域公共交通のネットワークづくりについて、北九州市の公共交通体系について御説明いたします。

資料１ページ目の北九州市の主な公共交通手段と交通ネットワークを御覧ください。北九州市の公共交通は、広域移動を担うＪＲをはじめモノレールや筑豊電鉄といった鉄軌道と路線バス、また、主に郊外部の生活交通を担うおでかけ交通など、多様な交通手段で構成されております。

次のページを御覧ください。北九州市では、目指すべき公共交通ネットワークとして、小倉、黒崎などの主要交通拠点をはじめとする各拠点間を鉄軌道やＢＲＴなどの路線バスによる幹線で結び、これに路線バスやおでかけ交通を支線として接続することにより、多様な交通モードがそれぞれの役割を担う持続可能な交通体系の構築を目指しております。また、交通施策の枠組みとして具体的に取り組む30の交通施策を設定しており、主な取組について御説明いたします。

次のページを御覧ください。まず、おでかけ交通は、地域住民、交通事業者、北九州市が連携して、一定の採算性の確保を前提に、タクシー事業者が運行主体となり、ジャンボタクシーやセダン型の相乗りタクシーを運行しております。

次のページを御覧ください。また、昨今のドライバー不足に対しては、官民連携による北九州モデルの取組を進めており、地域人材の活用によるおでかけ交通の運転手確保や、バスやタクシー事業者が業界を越えて連携した運転体験会や交流会などによる運転士募集に努めております。今年度は、これらの取組に加え、人材確保の裾野を一層広げるために、募集エリアを市外へ拡大していくこととしております。

次のページをお願いします。続きまして、異なる事業者間の連携についてですが、ＪＲ九州と西鉄バス、またモノレールと西鉄バスにより、相互連携による時刻表の案内や結節強化など、利用者の利便性向上や効率的な運行に取り組んでおります。本年３月には、ＪＲ九州と西鉄バス北九州との連携施策の一環として、門司駅において販売窓口や乗務員休憩所など相互連携の取組が発表されたところでございます。

持続可能な地域公共交通のネットワークづくりについての説明は以上となります。

○委員長（森結実子君）総務経営課長。

○総務経営課長　それでは、タブレットの北九州市営バス事業経営計画の取組についてのファイルをお開きください。

交通局におきましては、令和６年度に北九州市営バス事業あり方・役割検討会議を開催し、いただいた御意見を踏まえ、令和７年度に第４次北九州市営バス事業経営計画を策定し、着実

に取組を進めております。この検討会議には、今回の視察先である岡山市をはじめ様々な地域でバス事業などを展開されております両備ホールディングス株式会社からも構成員として御参画いただきました。

それでは、１ページをお願いいたします。第４次計画に沿った取組といたしましては、１番、市民の生活の足を守り続けるに沿った取組といたしまして、令和８年３月28日にダイヤ改正を実施したところでございます。次に、２、乗りたくなるバスを目指すに沿った取組といたしましては、ふれあい定期70、こどもミライ割を新設いたしました。次に、３、経営基盤の強化に沿った取組といたしまして、令和８年３月28日に運賃体系の見直しを実施いたしました。また、観光バス車両の増車、専任運転者の増員、営業体制の強化により事業規模の拡大とサービスの向上を図り、貸切り事業、受託事業の受注拡大を推進しております。このように、しっかりと交通ネットワークを維持していく決意を持ち、経営改善に向けてスピード感を持って取り組んでおります。

次に、２ページをお願いいたします。こちらは、検討会議において構成員の方々からいただいた意見をまとめた資料でございます。少し紹介させていただきますと、どの利用者を伸ばしていくのか、また維持していくか、ターゲットを絞る。運賃体系の見直しは、今後の人件費等コスト上昇を考慮して検討すべきと考える。これらの御意見を、ふれあい定期70、こどもミライ割の新設、運賃体系の見直しの検討に生かしたところでございます。以上で説明を終わります。

○委員長（森結実子君）ただいまの説明は行政視察のための事前研修ですので、委員の皆様は執行部に対する意見や要望ではなく、説明に対する質問を行っていただきたいと思います。当局は、答えられる範囲で結構ですので、答弁をお願いいたします。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

それでは、質問はありませんか。佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）常盤橋について今、あり方検討会が行われて、今後の在り方について議論があっていると思うんですけれども、その中で、歴史や文化性だったりとか観光資源であったりとか、常盤橋を生かしたまちづくりというのは大切なんじゃないですかというような意見も出ているみたいなんですが、これまで常盤橋を生かして、例えば学びの場であったりとか観光だったりイベントだったりとか、いろんなことをやってこられたんじゃないかなと思うんですが、これまでの常盤橋を生かしたまちづくりについて何か特徴的な事例があれば、教えてください。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋を生かした地域イベント等ということになりますと、地元が例年開催しております室町観月会、室町楽市、あと小倉祇園太鼓、あと右岸側になりますけれども、測量の記念ということで伊能忠敬献花の集いなどなどが地域を主体として開催されているとい

うような状況でございます。以上でございます。

○委員長（森結実子君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）市内で、橋を中心にというか生かした、今言われたようなまちづくりをやっているような事例ってほかにあったりするんでしょうか。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　多様なことがあるとは思うんですけれども、例えば河内貯水池のめがね橋であれば地域の方々が、小学生の方だと思うんですけども、マラソン大会で走ったりとか、そういったイベントといいますか、活用をしていただいているということはあると思っております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。最後なんですけれども、常盤橋を生かしたまちづくり、これまでいろいろやってこられていると思うんですが、市として、そうしたまちづくりに対して、どういう評価をしているのか教えてください。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋は、あり方検討会の中でもお話をいただいておりますが、歴史、文化、非常に大切な橋だという御意見をいただいております。そのような御意見を踏まえまして、今後も架け替えを軸にあり方検討会でしっかりと議論をしていきたいと。皆様に愛されてきた橋ということを含めまして判断をしていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。井上委員。

○委員（井上純子君）私から何点か質問させていただきたいと思います。まずは、事前学習に御協力いただきましてありがとうございます。

　まずは、橋りょうの整備について伺いたいと思います。あり方検討会が昨年、この数年で始まって、現状ということは理解しているんですけれども、今、架け替えを軸として議論がなされていると思います。私としては、何の事業でもプロジェクトでも、手段先行ではなくてニーズあってこそという軸が重要であると思っていまして、となったときに、今、検討会の中でも歴史、観光コンテンツとして活用していきたいということも御意見で出ているかと思いますけれども、となればニーズのリサーチや、私としては、小倉城の城下町でありながら、小倉というのは特に規制をかけることなく都心ならではの開発、まちづくりで進んできて、景観というのはおろそかにしてきたと認識しています。だからこそ、小倉城が見えなかったり、連動や、周遊、回遊させていく、ここが観光としても弱いなというのがハード面での課題だと思っているんですけれども、まず、ここの今後の活用のところも踏まえて検討されているのかを一点、教えてください。

次に、ウオーターフロントの都市開発について伺いたいと思います。平成３年の小倉駅北口地区整備構想を策定されて、民間だったり公共施設だったり、複数の施設が建設されて開発が進んだよという資料だったんですけれども、建設時期も、例えば民間であればリーガロイヤルホテルは平成５年ですけれど、公共施設は平成10年、ＡＩＭだったり今のメッセだったり、ミクスタが平成29年と。期間が結構幅広いものでして、ここの小倉駅北口地区の整備構想の期間、どこまで想定された現状の期間だったのか、まず期間を教えてくださいというのと、あと、この計画における公共事業の投資額について、官民一体でやったんであれば行政幾ら、民間幾らであったのかという金額の面を、教えてください。

最後に、地域公共交通ネットワークについてなんですけれども、交通局というよりは市全体の公共交通のネットワークという都市交通政策課になるかと思うんですけれども、北九州市だけで議論されがちなんですけれども、実際に生活されている、お仕事に行かれる方、そして、特に公共交通を使うのは高校生、大学生が多いかなと思っています。となったときに、学区って北九州市だけではなく、中間市まで行けたり、行橋市の子まで学校に通ってきたり、広域で公共交通を利用する方が多い中で、広域の公共交通まで踏まえて今北九州市としては検討というか、戦略として練られているのか、一点教えてください。以上です。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋のニーズのリサーチですとか、今後の活用の検討ということについてお答えいたします。

常盤橋のニーズ、今後の活用につきましては、都市整備局だけではなく、都市ブランド創造局、また小倉北区役所等とも連携を図りながら、そういった面につきましても検討を深めていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）小倉再生担当課長。

○小倉再生担当課長　ウオーターフロント関係の質問にお答えします。

まず、期間についてなんですけれども、こちら構想に具体的な期間は明記されておりませんで、今まで平成３年、それから平成16年に改定を行いまして、また平成27年に改定を行ってきたという経緯があります。ただ、もともとできたのが平成３年ということなので、かなり古い時代のものになっておりますので、今後、小倉の新幹線口、かなり新幹線の駅からも近く、ポテンシャルのある地区だと考えておりますので、今の社会状況に即した形の活用方法というのを検討していきたいと考えております。

また、公共投資額についてなんですけども、民間の施設というのは分からない部分があるんですけども、例えば、個別に申し上げますと、北九州国際会議場、これが総工費でいうと76億円程度、北九州国際展示場が約123億円、あとは西日本総合展示場の本館、これ古い時代なので金額の高い低いがあるんですけども、約16億円ということで記録されております。あと、近年で申し上げると、ミクニワールドスタジアムが100億円程度ということで認識しております。以

上でございます。

○委員長（森結実子君）都市交通政策課長。

○都市交通政策課長　本市では様々な交通事業者が交通網を形成しているというところで、今、鉄道やモノレールといった鉄軌道が骨格になって拠点を結ぶネットワークを構成しているという状況で、そこら辺のどう接続するかとか、どう利用しやすい環境にするかというのが一つ重要ということで取組をしています。一方で、広域という面でいきますと、路線バスでいきますと北九州から直方行きであったり行橋行きの路線バスに対する補助メニューだったり、そういったものを地域外と連携してやっているところもございますし、今後とも広域的な目線は重要だと考えておりますので、引き続き連携も考えていきたいと考えております。

○委員長（森結実子君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。今日は事前学習なので、現状を知れてよかったなと思っています。常盤橋について、以前からどう活用していくかということは意見、要望させてもらってはいるんですけど、今、小倉北区役所、都市ブランド創造局と検討していきたいということで部署名しか出てこなかったなというところで、ここもしっかり課題であるなと。このあたりもちゃんと活用もあるのか、今後の視察でぜひチェックしていきたいなと思っています。ありがとうございます。

ウオーターフロントの都市開発ですね。小倉駅北口地区整備構想、直近の改定が平成27年ということで、かなり長い、20数年にわたる継ぎ足し継ぎ足しの、市長も替わりながら継ぎ足しになっているんだなと理解しました。投資額のところ、今、公共事業のところだけ分かるものを教えてもらったんですけど、今後、武内市政になって民間投資をどう呼び込んでいくかという視点で考えたときに、これまで民間投資はどう呼び込んで、どのぐらいの投資額になったんだというところを金額として押さえていれば教えてください。

○委員長（森結実子君）小倉再生担当課長。

○小倉再生担当課長　すいません、今、手元には具体的な数字としては押さえておりません。以上です。

○委員長（森結実子君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。なるほどですね。こういったところも課題なんだなと理解しました。

公共交通ネットワークの広域連携のところですね。一応、課題意識としては持たれているということで、具体的に今計画とか、何か事業としてはあるんでしょうか。

○委員長（森結実子君）都市交通政策課長。

○都市交通政策課長　具体的な広域連携の新規の事業というのは今のところはございませんが、そこら辺も含めて、例えば筑豊電鉄であったり日豊本線であったり、そういった広域のネットワークを我々も持っておりますので、北九州市の中にですね。そういった利用促進であっ

たり連携策についても今後考えていきたいなと思っております。

○委員長（森結実子君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。難しいですね。多くの方が便利な社会になればいいなと思うんですけど、一方で、周辺の自治体が不便になればなるほど、北九州市に移り住もうかなというニーズも出てくるだろうなと思ったりもするので。ただ、平成筑豊鉄道の件もありますし、そこは検討の余地があるという認識は理解して、終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。片山委員。

○委員（片山尹君）常盤橋のあり方検討委員会の委員の名簿の中に、経済界の推薦というか、出身というか。なぜ私がこういうこと言うかといったら、地図のゼンリンがリバーウォークを含めてできたときに思いがあって、ここに本社を置いてもらったこともあったり、今、戸畑に変わったけども、そういうこともこれまであったのですから、最初のゼンリンの大迫さんのことを思い浮かべると、声ぐらいかけて、常盤橋の検討委員会にゼンリンとして、経済界として入りませんかというやり取りはしておりませんか。そこだけ。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋のあり方検討会の構成員の方々につきましては、まず専門家の方とかまちづくりの方とか、あと地元の関係者の方に御参加をいただいています。ゼンリンの関係者の方には、検討会の御参加で声をかけたということはなかったと記憶しております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）片山委員。

○委員（片山尹君）何が言いたいかといいましたら、企業誘致も大切だけども、今までここで頑張ってくれた企業の皆さんにも北九州市にぴしっと根を張ってもらうために、こういう話が出ると、経済界代表として地図のゼンリンに、これ請負業者じゃありませんので利害関係はないと思いますから、声をかけて、検討委員会に入りませんかというぐらいの配慮が私はあったほうがいいと。話せば長くなるからこれ以上申しませんが、そういう声かけ運動を、あり方検討委員会の中に、名簿見たら町内会とか自治会が入っていることは間違いないけど、この町全体を見たときに、常盤橋は長崎街道の起点でもあるし、地図のゼンリンの思いは、今は全国的になったけど、声もかけてくれんから、例えば北九州市やめたと、福岡市に行くとか言われたらどうする。常に企業に思いが行くように、検討委員会に入りませんかというぐらいの声をかけるぐらい、あったほうがいいと思いますが、部長答えられる。局長が答えたほうがいい。

○委員長（森結実子君）都市整備局長。

○都市整備局長　ありがとうございます。ゼンリン、ここに企業としてなりわいをしていただいて、リバーウォークの中にも博物館を設けていただいていると。私も何回か伺って、この町の歴史とか、地図から読み解くという企画などもやっていただいていますので、いろんな形でゼンリンも地域に貢献していただいていますので、そういったところを踏まえて、今後いろん

な関わり方等について考えてまいりたいと思っております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）片山委員。

○委員（片山尹君）了解しましたけども、このメンバーを見たときに、やっぱり経済界にも声かけて、経済界からゼンリンを推薦とか、どこかを推薦とかなるでしょうから、その辺の配慮をしてくださいね。これからどういうふうに造っていくかということも検討委員会で議論して、最終的には役所が決めるんだと思うけど、そこの配慮を欠かないようにお願いをします。以上で終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。山内委員。

○委員（山内涼成君）事前学習ということなので、ちょっと聞いておきたいなと思うんですけれども、常盤橋について、歴史とか文化とかということを踏まえながら今まで運営されてきたんだろうとは思うんですけれども、建てられた当初の動線としての位置づけというものがどういうふうに考えられて造られてきたのか。今後、そういう意味では、検討会でどのような意見が出ているのかというのをまず教えていただきたいと思います。

それから、交通政策ですけれども、おでかけ交通の持続可能性についての見解を伺いたいと思います。以上です。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋の建設時の位置ということと検討会での意見ということです。まず、平成７年に現在の常盤橋は架け替えられましたけれども、長崎街道の起点ということ、五街道の結節点というところで現在の位置に架け替えられたということになっております。常盤橋のあり方検討会の意見ということですけれども、まず、第１回の検討会ではどのような形であっても残してほしいというようなこととか、第２回の検討会では、小倉城下町の面的な歴史、ストーリーを語る上で重要ですとか、歴史のみならず観光の視点でも重要ですとか、そういったソフト、ハード面から様々な御意見をいただいております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）都市交通政策課長。

○都市交通政策課長　おでかけ交通は、地域住民の移動手段の確保を目的に、タクシー事業者と協力して、今現在11路線で事業を実施しているところでございます。現状としましては、今後、なかなか利用が進んでいないというところについては地域に入って利用促進を図るとともに、収支の悪いところについては、例えば便数の変更であったり、定路線を自由経路に運行変更するなど、地域住民と一緒になっていろいろ考えていきたいなと思っております。中長期的には、おでかけ交通という手段のほかに、例えばＡＩを使ったオンデマンドバスであったり、新たな移動手段についても模索していきたいなと思っておりまして、今年度はそういった実証もやっていきたいと考えております。あわせて、長期的な面でいきますと、将来の行政負担の在り方というところも当然ございますので、そこら辺についてもどんどん研究してまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）常盤橋について、例えば商店街、それから居住スペース等への動線の在り方がどう検討されたかということが聞きたかったんですけども。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　商店街とか周辺の住宅との動線という面の検討ということですけれども、紫川マイタウン・マイリバー整備事業で架け替えられたときに、もともとあった位置に残すということで現在の位置に平成７年に架け替えられたというものですので、商店街とかとの動線というわけではなくて、もともとあった位置に架け替えたという経緯になっております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）それも歴史とか文化とかそういうことを踏まえての上だとは思うんだけども、建て替えるわけですから、さらにいいものにしていくという観点が必要だろうと思うので、そこら辺を重視して見てきたいなと思っていますので、また提案なり何なりさせていただきたいと思います。

それから、おでかけ交通ですけれども、あり方検討会の中では、実際に両備バスの方が入っていますよね。こういう方の意見等々からして、おでかけ交通に対してはどういう意見が出ているか教えてください。

○委員長（森結実子君）都市交通政策課長。

○都市交通政策課長　交通局のあり方検討会での両備ホールディングスさんの意見としましては､営業件数の高いところについては順次運行体系を見直して取り組んでいくべきと｡あと、運転手確保等につきましては、しっかり待遇であったり賃金であったり、そういうところを踏まえた上で運転手確保を進めていくべきというふうな声を聞いていると伺っております。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）交通政策としての位置づけというのはそういうところになるんだろうとは思うんですけれども、あり方検討委員会の中では交通政策全体の議論がされていると思うんですよね。そうしたときに、交通局が公営企業として果たすべき役割についてどういうふうに議論されているのか教えてください。

○委員長（森結実子君）総務経営課長。

○総務経営課長　あり方検討会の中では様々な意見をいただいております。公共交通全体に関する意見としては、例えば、北九州市にある交通の資源、これはタクシー等も含めたということでございますけれども、交通の資源を総動員したときにどういう形で公共交通のサービスを設計し、市民の生活の質を守っていくかということが重要であるとか、あとは、ほかの交通機関と組み合わせることによって、利用できる総量が増えたと利用者に感じていただける取組をやっていくことが大変有効である。それからあと、北九州市全体の話でいえば、交通空白地帯

をつくるわけにはいかない、必ず何か交通ネットワークがあるべきだと。このような公共交通全体に関する意見をいただいております。私ども交通局としての役割としましては、地域の市民の生活の足を守ると。この役割を今後も果たし続けていきたいと考えてございます。以上でございます。

○委員長（森結実子君）山内委員。

○委員（山内涼成君）民間事業者から見た公営交通のあるべき姿というものが語られていますか。

○委員長（森結実子君）総務経営課長。

○総務経営課長　交通局、経営改善をしている中であり方検討会というのを立ち上げて議論していただいたということでございます。民間事業者からの目線ということでいえば、我々の乗り合いのバス、いわゆる路線バスだけでは収入が下がってきているという現状で、そこをどうやって補填していくかということでは運賃改定の見直しをしたところでございますし、あと、貸切りの受託事業、そういったところで収益を上げていきまして乗り合いの収入を埋めていくと。そういう形で今経営を改善していこうとしてございますが、公営交通事業者単体でこのまま継続していくというのはなかなか今後も厳しいだろうというふうな御意見でございました。以上でございます。

○委員（山内涼成君）終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。成重委員。

○委員（成重正丈君）常盤橋について質問します。事前勉強なので、今後のこともあるんですが、京都市の三条大橋のところを見ると、架け替えというか、補修と防護柵等の更新等でふるさと納税を活用して、ふるさと納税等ということで、あと何か分かりませんけども、やったということで、北九州市として常盤橋の架け替えで、先ほど将来的な負担を軽減するということでおっしゃっていましたので、今後の考え方として、ふるさと納税とかクラウドファンディングみたいなのとか、それから公営競技の事業費の一部を埋め込むとか、そういうふうな考え方があるのか教えていただければと思います。

○委員長（森結実子君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋の今後につきましてですけれども、常盤橋のあり方検討会で架け替えを軸に検討を進めております。その中で財源につきましても、クラウドファンディングですとかふるさと納税ですとか、市にとって有利な財源というものにつきましても今後研究していきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）成重委員。

○委員（成重正丈君）京都市に聞いて、ふるさと納税等ということで、ほかに何をしているのか聞いてきたいと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。

ここで副委員長と代わります。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（中島隆治君）森委員。

○委員（森結実子君）すいません、１点だけ教えてください。常盤橋のあり方検討会なんですが、これから何回ぐらい開催予定で、また、どれぐらいの時期に方針を決定するのか教えてください。

○副委員長（中島隆治君）長寿命化対策課長。

○長寿命化対策課長　常盤橋の今後のスケジュールですけれども、現在、あり方検討会におきまして架け替えを軸に議論を進めております。今後ですが、川の中に残っておりますコンクリートの橋脚が再利用できるかどうかなどの調査、検討をしまして、その結果も含めまして、常盤橋のあり方検討会におきまして総合的に議論をしていきたいと考えてございます。調査、検討の結果をもって、踏まえて考えていきたいと考えております。以上でございます。

○委員（森結実子君）ありがとうございます。

○副委員長（中島隆治君）ここで委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。

ほかになければ、以上で行政視察の事前研修を終わります。なお、視察終了後に本委員会において視察内容について委員間で意見交換を行い、所管事務の調査の委員会報告書に反映させていく予定ですので、よろしくお願いいたします。

ここで次の議題に関係する職員を除き退室願います。

（執行部入退室）

次に、公共インフラの適切な維持管理・整備についてを議題とします。

本日は、北九州市道路・河川・公園雑草対策基本戦略最終取りまとめ案に対する市民意見募集の結果について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。総務課長。

○総務課長　それでは、所管事務調査報告資料に基づき、北九州市道路・河川・公園雑草対策基本戦略最終取りまとめ案に対する市民意見の募集の結果について御説明いたします。

資料の１ページ目を御覧ください。平成８年３月24日から４月24日までの１か月間、市民意見の募集を行いました。意見提出につきましては、15名から28件の意見をいただきました。意見の反映結果の内訳につきまして、１、基本戦略に掲載済みが１件、２、基本戦略の追加・修正ありが１件、３、基本戦略の追加・修正なしが17件、４、その他が９件となっております。

続きまして、２ページ目を御覧ください。市民意見と市の考え方について御説明いたします。意見の内訳につきましては、協働の再設計に関するものが10件と最も多く、次いで、各論編の道路に関するものが５件、総合的雑草管理の考え方の導入に関するものが４件などとなっております。

次に、提出された主な御意見と、それに対する市の考え方について御説明いたします。

初めに、今後の戦略のうち、除草の時期の見直しとめり張りのある管理及び総合的雑草管理の考え方の導入に関する御意見です。資料の３ページから４ページとなります。市民からの御意見としましては、ＵＲ団地での除草の取組事例の紹介や、比較的手入れが不要な地被類の植栽といった具体的な管理手法について御提案いただきました。市としましては、財政負担の最適化など様々な視点で効率的、効果的に取り組むことが重要であると考えており、ＵＲ団地での除草の取組につきましては確認をさせていただき、今後の参考とさせていただきます。また、雑草が生えにくい地被類などの植物を植える管理方法につきましては、総合的雑草管理の一つの選択肢として耕種的防除に位置づけており、今後、景観に配慮する道路の中央分離帯などでの活用を検討してまいります。

次に、協働の再設計に関する意見です。資料の５ページから８ページになります。市民からの御意見としましては、地域の高齢化等を踏まえ、無理のないボランティア制度の在り方を求める意見や、アプリを活用した草の繁茂状態の可視化といったアイデアをいただきました。市としましては、基本戦略の協働の再設計に位置づけておりますとおり、自治会などのボランティアの方々との役割分担などを再整理し、高齢化社会に対応した無理のない協働の再設計に取り組んでいくこととしております。

そのほかのいただいた具体的な意見につきましては、今後、事業の取組を進める上での参考とさせていただきます。

最後に、各論編の道路、公園に関する意見です。資料９ページから10ページになります。市民からの御意見としまして、交通安全上、支障となる箇所の視認性確保を重視する意見や、公園愛護会への支援を求める御意見をいただきました。市としましては、基本戦略の中で、道路における雑草管理の水準を交通安全、景観、生活環境、その他郊外部などの４つの視点で区分しております。これにのっとり、交通安全上、支障となる箇所などは年間を通して雑草の繁茂が少ない状態を保つ一方、郊外部などは臨時的に対応するなど、めり張りをつけて取り組んでいくこととしております。また、特に車両の通行や交差点の視認性に影響する場所については年間を通して雑草が少ない状況を保つよう、防草を推進してまいります。次に、公園愛護会への支援などにつきまして、昨年行ったアンケートについて現在分析を進めており、公園愛護会が困難と感じていることなどについて、今後の取組の中でどのような支援ができるか検討を行ってまいります。

そのほか、資料の11ページ、市民からの意見としまして、緑化路線に関する考え方などについて説明すべきではないかとの御意見をいただきました。これにつきましては、基本資料集、お手元の資料59ページに緑化路線の考え方として追加をいたしております。また、資料28ページ、各論編の道路の協働の取組のうち、新たな取組の企業版道路サポーター制度につきましては、これまで道守制度（創設予定）との記載にしておりましたけども、今年度４月10日から制

度を開始いたしましたので、その旨の内容の時点修正を行っております。

以上を踏まえた最終取りまとめ案（市民意見募集後）の資料を12ページより掲載しておりますので、後ほど御確認ください。

最後に、資料の１ページにお戻りいただきまして、今後のスケジュールについて御説明いたします。この後、５月26日に第４回北九州市雑草対策のあり方検討会議を開催いたします。その後、５月末に市民意見募集の結果を公表する予定としております。説明は以上でございます。

○委員長（森結実子君）ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。総務課長。

○総務課長　申し訳ございません。先ほどの説明のうち、令和８年３月24日と言うところを平成８年と申しておりました。令和８年３月からの間違いでございます。修正いたします。

○委員長（森結実子君）ありがとうございます。

質問、意見はありませんか。井上委員。

○委員（井上純子君）御説明ありがとうございます。パブコメの方法としては、どこの事業でもどこの計画でも同じように実施されて、件数としても同程度かなと。なので、どこまでこれを大きく取り上げて、どのぐらいが市民の声と大きく認識するかというのは難しいなというのは前置きに置いといて、意見を聞く中で、基本戦略、総合的な考え方というところで、市民に関心が高い話題の割に、踏み込んだ意見にいまいちコミットできていないのかなという印象でした。というのも、具体性がまだ欠けているという御意見があって、分野的な実行計画はこれに基づき今からつくるんですよというところで、そこが市民の感覚と合っていないのかなという感想です。なので、１点お聞きしたいんですが、今後、分野ごとに、公園はこのようにしていきます、河川はこのようにしていきますと。こういった具体的な場所における方針を定めていくとき、これに関しては何かパブコメだったり、市民に混乱や誤解がないように公表することは考えているのか教えてください。

○委員長（森結実子君）総務課長。

○総務課長　雑草対策の分野別計画等につきまして、まず基本的な考え方としまして、雑草対策につきましては、令和６年度から試験施工を行っていました防草について、具体的な場所や面積、進め方を定めて対策を進めることとしております。また、適切な除草時期の検討などにつきましては、試験施工やモニタリングなど一定の期間を要する検証についても今後行っていくところでございます。そういったものを踏まえながら実行計画を作成していくものでございます。また、実行計画につきましては、ＰＤＣＡのサイクルを回すものでもございますけども、どちらかといいますと実務的なことが多いと思いますので、適宜そういったことで必要に応じて説明することとしてまいりたいと思っております。以上です。

○委員長（森結実子君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。恐らく令和９年度予算からの反映になるかなと

思うんですけれど、市民からすると、目の前の公園が、より草がなくなるのかとか、すごく身近な問題なんですよね。ですから、今から回数や時期などは検証があって決めていくということで、そこで予算がどれぐらい必要で、実行できるねということで確定していくんだと。やはり予算が取れないとこれは実行できないから、予算が取れるかも重要になってくると思うんですけど、ぜひこれ具体的に予算も確保して、私は予算取ってもいいと、増やしていいと思っている分野ですので、もしそのときは予算発表のときにも大きなネタとして、ぜひ会見でも言ってほしいぐらいの話かなと。市民からすると、大きく取り上げてほしい、市政だよりや記者会見ネタでもいいですし。ぜひここは、別にパブコメに一切こだわっておりませんので、広報、周知のところは工夫してほしいなと思います。

あと、これまだ具体的に入っていないかと思うんですけど、市民の負担でいうと、ボランティアさん、公園愛護会による除草活動のところが皆さんの注目するところだと思います。今、町内会の加入率が下がってくると、全くこういったボランティアをしていることも知らない市民も大分増えてきていまして、知ると驚くような負担になっているなと思っています。今、アンケート取っているかと思うんですけれど、公園愛護会向けのですね。このアンケート結果がいつ集計、公表されて、それをどのように今後生かすのかとか、スケジュール的なところを教えてください。

○委員長（森結実子君）みどり公園課長。

○みどり公園課長　公園愛護会のアンケート調査に関する御質問です。アンケート調査に関しては現在集計中で、これから細かいところまで分析していくということになるんですけども、一例ではございますけども、回答のあった愛護会に関して、平均年齢がかなり高齢化しているということが一つ分かりました。今後、困難と感じていることはどういうことかというのを詳細に把握し、今後の活動の継続性、どうしたら継続していけるかとか、その辺を市としてどのような支援ができるかということを検討していきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（森結実子君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。高齢化していることが分かった、それは見込みのとおり、織り込み済みのことかなと思いました。ボランティアによって、皆で公園愛護会によって肉体的な負担をされている町内会もあれば、例えば市営住宅、県営住宅とかだったら業者に頼んで、部分的に業者、部分的にボランティアでされていたり、そこで労力だけじゃなく草刈りの、市が今予算が厳しいと言うように業者の金額がどんどん上がっていって、発注する金額も増えていって、一方で町内会の地域振興に当たる補助金は全体的にシーリングカットされている中で、しわ寄せが来ているなという意見を聞きます。住民から聞く中で、厳しいからこそ町内会費は上げざるを得ないとか、ここの取り分とかで、お金のトラブルがこの１年ですごく増えたなと。負担とお金と、納得いかないから、結局全てけんかになっているなという、その中に草刈りも入ってくるという印象ですので、ここの不安感を早く払拭していただきたい

のと。また、公園愛護会の年齢だけではなく、業者に発注している町内会さんもいらっしゃるから、こういったところも全て把握しながら、なかなかここの部署だけでこれを議論するのは難しいと思っていますので、地域振興に係る部分だと思っています、公園愛護会に係るところはですね。なので、地域振興課とも連携しながら、今、地域コミュニティービジョンを再構築しようとしておりますので、雑草の維持管理というのが、この中の大きな課題、地域コミュニティービジョンの大きな課題､肝になってくると思います｡そこの部署ともちゃんと連動して、実のある計画として連携してほしいということを要望して、終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）草刈りというのは地域住民の皆さんの関心が非常に高くて、安全・安心に快適に暮らしていくためには適切な草刈りを行っていただいて、適切な管理水準を維持していくということは極めて重要だと思っています。だからこそ議会の中でもいろんな議論があって、組替え動議というものが可決されたと。そういうことも踏まえて今回基本戦略を取りまとめていくということなんだろうと認識しているんですけれども、そんな中でこれからいろんな工夫をされて頑張っていただくということについてはしっかり応援していきたいなと思うんですけれども、とはいえ、今井上委員からもありましたが、やっぱりこれ予算増やしていかなきゃいけないところなんだろうと思うんですよ。物価も上がって除草コストもどんどん上がっていく中で、どうしても予算を増やさないと適切な管理水準というのは、どんな工夫をしても維持するのは難しいと思うんですよね。この資料を見ると、除草費用の予算、決算の推移を見てみると、予算額に対して決算が増加しているという状況がずっと続いているわけじゃないですか。だから、ここは決算を予算に反映させていくということをこれからの予算編成に当たってはしっかり押さえてやっていただきたいなと思います。以上です。終わります。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。中島委員。

○委員（中島隆治君）今回、総合的雑草管理という考え方が示されているんですけれども、市民の皆様からすると、じゃ、今後どう変わるのかということが非常に大事だと思うんですね。また、今回の様々市民から意見をいただいて、その回答の中にも協働の再設計という言葉が多く引用されているんですけど、これも市民の皆様にとったら分かりにくい言葉じゃないかなというふうな印象を私自身は受けたんですね。そこら辺の言葉を役所が引用して終わりじゃなくて、もう少し市民に分かりやすい、こうやっていくという具体的なイメージというのを示したほうが私はいいんじゃないかなと感じましたので、草が生えにくくするとか、草刈りの回数を減らすのか、そこら辺が分かりにくいので、具体的なイメージをもっと示したほうが私はいいんじゃないかなと思ったんですけど、そこら辺の見解について伺いたいと思います。

○委員長（森結実子君）総務用地部長。

○総務用地部長　御意見ありがとうございます。この戦略に関しましては令和７年度につくっていきまして、今年の２月に中間取りまとめ案というものを発表させていただきまして、そこ

で従来の予算の中では行き詰まっているところまで来ているということを申し上げまして、令和８年度予算につきましては従来の除草予算に加えて２億5,000万円､議会の御承認をいただきまして増額させていただいたところです。今回、除草の予算につきましては、区のまちづくり整備課といろいろとお話をさせていただいて、今年度は従来の除草に加えまして、こういったところをめり張り利かせて定期的に除草ができるようにということで、数回お話をさせていただいて、そこをしっかり重点的にお願いしますということも今話を進めているところでございます。そういったものが実っていくと、市民の皆様に目に見えた形にもつながっていくのかと思っております。また、防草の対策についても試行期間を経まして徐々に進めていきたいと思っておりますので、それも実行の計画のほうは考えていきたいと思います。試験施工のほうも今いろいろ考えているところでございます。そういったものを踏まえまして、折々に市民の皆様に、断片的にはなるかもしれませんけれども、お知らせすることで、進めているんだということを発表していきたいと思っています。

そういった意味では、協働の再設計につきましても、これ令和８年度を、この戦略が出来上がることを待たずに、ところどころでいろんな発表をいろんなところでさせていただいております。例えば、公園愛護会をサポートする企業とか学校、そういったところと連携するという取組を先日プレスリリースした区もあったかと思います。そういった、私どもだけではなくて市役所全体、市全体で連携してやっていく取組だと思っておりますので、実行計画の作成を待って何もしないわけではございません。そういった取組については折に触れて御報告させていただきたいと思います。以上です。

○委員長（森結実子君）中島委員。

○委員（中島隆治君）ありがとうございます。今、部長が言われたように、企業とか団体とかいろんな主体を巻き込んだ取組になろうかと思いますので、結局地域に任せるんじゃないかみたいな、そんな雰囲気にならないように、いろんな団体とか企業を巻き込んでの取組ということが分かりやすく示されるようにぜひＰＲしていただきたいと思いますので、お願いします。以上でございます。

○委員長（森結実子君）ほかにありませんか。

ほかになければ、以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会します。

都市戦略整備委員会　委員長　　森　　結実子　　㊞

副委員長　　中　島　隆　治　　㊞